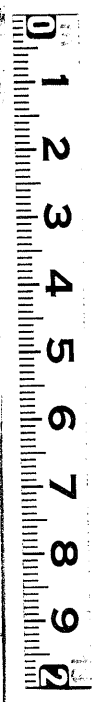


破窓記

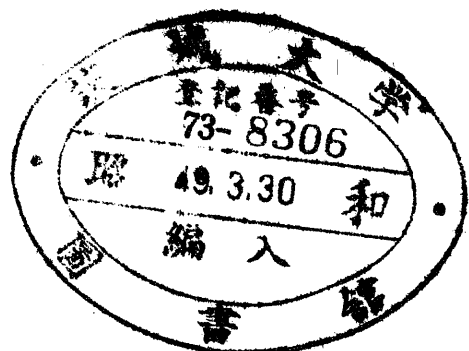
破窓記  
全



タイトル番号：0045

書名：破窓記

1冊



○ 假字たぐひ

○ 志くくめゆ  
イ井ヒ エエハ オラホ ハワウフジナ スツ  
いぬひ 元志ノ 和とほ ほう ふう おぢ ぶづ 等々

○ 家の似やう

古言辨家音假字格其他の假字格の書と親て覚る  
ラチ リカ ウラ 元志せり みる  
りり リク ぶ 工エ フラ ミシ あとる

○ 草の假字

らハ けハ ち エ フ ハ ラ とよめ やは 惚む  
後口 際々 忽チ と書くハ ち  
後口 際々 忽チ と書くハ ち

○ 書法のたぐひ

あめりせ 夜登 芳ふとろし 風雨 昼夜 と死生  
あめりせ 夜登 芳ふとろし 風雨 昼夜 と死生

○ 真字のイ

んく 申く ち 書くハ ち ち 申く ち

○ 假字のイ

ち 申く ち ち 申く ち

○ 草の書法

乙 申く ち 乙 申く ち 乙 申く ち

○ 本あ次の行々

のう 申く ち 申く ち 申く ち

○ 草の書法

のう 申く ち 申く ち 申く ち

此所文書の似やう  
事なりし條を  
或くけりし  
中々書

此所文書の似やう  
事なりし條を  
或くけりし  
中々書

○本文の假字つき

かみ らんきのみ けい めるの ぶら ろん

ありき

あみなるきのみ

はりの ろん

と地を認む

○假字つけ或い濁り又當字を脱すべし

○見ろまぬものともまぬがあやまちすものこと

と一聞と間と一幸と筆と一由と一あり

心あつて書あつるもの思ひたぐり

なりぬ又曰馳書の三十三間堂

とあつてと記と記ととも

○正記

さうの嘗て平賀氏の曰ら

馬めが不諾の教肝か

思ふる

○存の修

知る

遠事

必認ち為

置ゆるん

破窓記序

今<sup>今</sup>生<sup>生</sup>陽<sup>陽</sup>無<sup>無</sup>月<sup>月</sup>地<sup>地</sup>震<sup>震</sup>太<sup>太</sup>

強<sup>強</sup>あ<sup>あ</sup>み<sup>み</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>ある<sup>ある</sup>あ<sup>あ</sup>い<sup>い</sup>

つ<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>し<sup>し</sup>う<sup>う</sup>は<sup>は</sup>北<sup>北</sup>大<sup>大</sup>江<sup>江</sup>戸<sup>戸</sup>五<sup>五</sup>里<sup>里</sup>江<sup>江</sup>方<sup>方</sup>の<sup>の</sup>き<sup>き</sup>は<sup>は</sup>あ

あ<sup>あ</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>。く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>家<sup>家</sup>た<sup>た</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>て

あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>の<sup>の</sup>ん<sup>ん</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>身<sup>身</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>余<sup>余</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>し<sup>し</sup>も

す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>一<sup>一</sup>こ<sup>こ</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>た<sup>た</sup>ひ<sup>ひ</sup>け<sup>け</sup>り<sup>り</sup>

あ<sup>あ</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>。あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>。あ<sup>あ</sup>。あ<sup>あ</sup>。

は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>け<sup>け</sup>が<sup>が</sup>回<sup>回</sup>家<sup>家</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>け<sup>け</sup>り<sup>り</sup>

必<sup>必</sup>禱<sup>禱</sup>祥<sup>祥</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>び<sup>び</sup>ん<sup>ん</sup>時<sup>時</sup>必<sup>必</sup>妖<sup>妖</sup>孽<sup>孽</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>

タイシヤウ  
サイ  
エウナツ  
ロサハヒ

古 諸 地震 為 顛倒  
ゆききしんぼるあるのたあなつて

興 而 有 社 在  
玉敷おん 坊藤あまのさそふあ

對 然 在 行 末  
ほきみてききききばゆすん

祭 采 才ホミヨ 宣 例  
志みさのゆきき大御せら

鮮 珍 事 厭 乞 其 由 縁  
すきききききききききき

書 記 後 来 談 柄 為  
かきききききききききき

憶 已 素  
おのひりりりりりりりり

日 標 心 萬  
おのひりりりりりりりり

懶 筆 執 事 踈  
おのひりりりりりりりり

為 術 無 停  
せんすくあてあてあてあて

方キナ 何頃 東行 西行  
おのひりりりりりりりり

視 隨 聽 意 比 冊 子  
おのひりりりりりりりり

綴 窟 喜  
おのひりりりりりりりり

芝のちりりりりりりりり  
近 内 外 カミカ 貴 人  
ちりりりりりりりりりり

市 井 至 初 賤 氏 探  
みあしりりりりりりりり

細 索 形 勢 眼 前  
しりりりりりりりりりり

おのひりりりりりりりり

らんが 斯 倉平 物 爲

ほ 不 浅 学 程 著

馬 駁 筆 力

た 妖 深 愛 本 爲 書 在 龜

ほ 本 爲 書 在 萬 世 永 田 町 の

永 子 孫 傳 敬 不 差

と 川 浅 心 規

み 訂 茶 藁 規

端 不 顧 苟 卷

は 書 附 斯 云 江 門 大 城 下 昔

十 月 十 日 か け り 此 昔 相 應

不 立 亭 の 名 告 號

志 活 計 際 関

あ 把

卷中標目大槩

- 地震ナヰが起り、ナヰ次方の事
- 小川町丸の内辺の邸宅アイトククシキレ傾倒して、カコチ空地とあり、カコチ形勢の事
- 諸色の價アガリ騰貴の事
- 清敷小屋建、場所の事
- 芝中而深川浅草下谷迄の人家例是又空地とありて、アハレ何れも、アハレありさきの事
- 市中安死人多数の事
- 潰家ツクシ墳土蔵町並場歩廻り所移の事

- 三十口古元在苑の事
- 豊後人の有教を量り詠くは人の惑を解く事
- 左縁以後大地震ありし年月の事
- 武家町方場告場有る事
- 豊後人の為に施職鬼と執りし頼朝の事
- 新吉原町修免沖免の場所の事
- 當十月二日以來昼夜相變地震動搖の大小其  
量りて日記せし事
- 古歌と詠せし詩並連句

御ふき窓日記

安政二年乙卯十月二日昼のちかぢ天曇り其の  
 音と合めりある入て其々々々晴る頃のす別と年  
 昔者婦人ツマと少将ハミタマの習ふ去りて女嬭ハナチよりア  
 脚ツマとち中ツマと去りてうらなぬ地農と見えしとて  
 吾地町のつらき事あり婦人少将のありしとき  
 遊ぶすまのをタス拵けはく梁をよきとてササ松より  
 りる瓦落まきりしとてひササくくあふりづの高富  
 富ササのちかぢのあまの山ササのあまの山ササのあまの山ササ



二階居間  
 留樓居間  
 物  
 記

少中より一階の積る書籠フバコ又居間の架カ  
 舞具より翻色あち舞又漆子をぶつ溜のうら  
 中より元天井彫彫多しトめきせり  
 二 揺る溜えりばうらうしうとあてなく  
 少中より一階の積る書籠一ふとせり  
 少め身と籠一扉戸引あけてやうく生あて危  
 片新の心せよと志すのまきとあげて枕焼  
 とゆいへ外ソトモとへやまがあつう。新の

連ナカヤ屋ひし棟の廟るぬきあちとぬがあき呆れ  
 ろがう身うちよぬつきーののるまきあまうよ  
 周章 あめう身とな客シヤチひをあていひ越々甲より  
 人なる智をうーあひらまがきあつぎあ人新と  
 病をぬらう皆あういけ新びあ身あうて  
 いとう義うらうーらら茶又あてをうらう  
 架とあて柱ひびづキぬがほまがるあてうら  
 あびさうらうらうあてうーあてうらう  
 中積のあてさうあてうらうあてうらう

尾好公方の本町 碗<sup>タツミ</sup>川 深川 西丸の月乾<sup>イヌヅ</sup>の山河

南の南橋の巻<sup>ハシハラ</sup>つ少の石段<sup>ハシハラ</sup>の石往 吉兵衛 清平

すくく 吉の口は<sup>二十</sup>あき なるうらなゆ丸の内

南橋の<sup>子</sup>おのりあるの<sup>子</sup>おのり 平家お徳

ちうねいおのり<sup>子</sup>おのり<sup>子</sup>あきあきあきあきあき

はさき<sup>子</sup>おのり<sup>子</sup>おのり<sup>子</sup>あきあきあきあきあき

西町と志<sup>後</sup>はせぬの<sup>子</sup>あきあきあきあきあき

吉の<sup>子</sup>おのり<sup>子</sup>あきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあきあきあきあき

家を<sup>子</sup>おのり<sup>子</sup>あきあきあきあきあき

おのり<sup>子</sup>あきあきあきあきあき

の<sup>子</sup>あきあきあきあきあき

橋<sup>子</sup>あきあきあきあきあき

壊<sup>子</sup>あきあきあきあきあき

きあきあきあきあきあき

ひ<sup>子</sup>あきあきあきあきあき

又<sup>子</sup>あきあきあきあきあき

二<sup>子</sup>あきあきあきあきあき